

114
A 3796



於上
溢 一千八百七十七年二月二十三日

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈



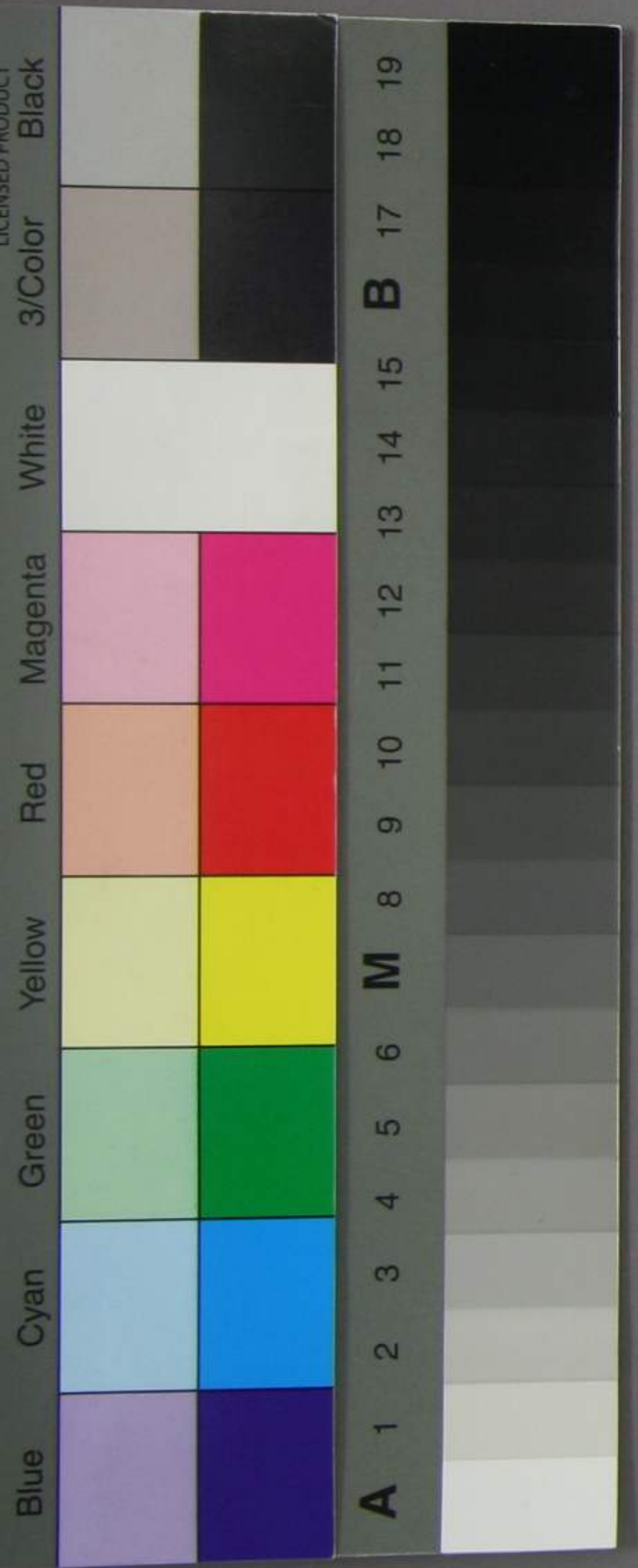
大隈

843

吉原氏ノ當地ニ滯在中日本茶一件ニ付キ大ニ
益談ヲ得タリ右ニ付テハ余ハ前便既ニ太政官
土方久元氏ニ逐一通信致置候得共今又吉原氏
ノ需ニ應シ十分ニ拙者ノ見込ヲ閣下ニ上申致
シ候

九州茶一九州島ニ産スル所ノ茶ハ之ヲ日本ノ中
國諸地ニ産スル所ニ比スレハ今日マテ、其品
質甚不良ナリ然シテ其何故ニ然ルヤノ理由ヲ

飛騨茶
大隈



考フルニ余一爰ニ大關係ノアルトモ見出し申
 下候。九州ノ地味ハ概シテ中國地方ト比一ノ
 膏腴ナレ氏若シ之ヲ中國地方ニ比較シ強テ其
 間ニ等差ヲ立テ茶生殖ノ為ニ該島ノ風土ハ
 稍ニ中國諸地ノ風土ヨリ適良スト云フヘキナ
 リ支那ニ於テ歐洲及ク米國ニテ最モ貴重ナル
 所ノ茶ヲ産スル地方ハ緯度貳拾五度乃至三十
 三度ノ間ニ在リ就中無上適當ノ地方ハ緯度ニ
 十七度乃至三十一度ノ間ニ在リ左スレハ九州
 如キハ最上ノ地位ヲ占ムルモノト存候

九州地方ノ最上ノ地位ヲ占ムルハ前ニ言フカ
 如シ然ル中ハ培養、摘取、製造及ビ茶葉箱詰等ニ
 一層ノ注意ヲ加フル中ハ九州茶ニシテ其品位
 ノ他州ノ下ニ在ルノ謂レナシト存候
 第一 培養ニ付テ九州ニ於テ茶樹ハ假令荒
 蕪地ナルモ培養ニ少シク意ヲ用ヒハ其生殖ヲ
 妨クルトナク必ス繁茂スヘシ左ニ引援スル所
 ノ印度支那ニ於ケル茶樹培養ニ係ル所ノ説ハ
 茶樹培養ノ学ニ深達セルハンソン氏ノ報告中
 ヲリ抄シタルモノナリ

茶樹ハ地味及ヒ地位ヲ擇ハスシテ何レハ地ニ
 生殖殖スルモノナレバ就中程好キ高サ丘側
 ニ拾テ最モ好ク生殖セリ蓋シ丘側ニ於テハ地
 肥沃温度濕氣ノ茶樹ニ益ヲ与フルノ最モ宜
 シ而シテ此三者ハ如何ナル樹木ノ培養ニモ欠
 クヘカラサレモノナレバ茶樹ノ如ク屢ニ其葉
 ヲ摘採セラレ且新芽ノ萌出ヲ要スル所ノモ
 ニハ是等ノ天然力ハ最モ要用ナリトス而ノ最
 茶樹ノ培養ニ適スル地味ハ植物質ノ適宜ノ
 量ヲ包含シ其地質ノ密ナルノ降雨ヨリ降雨ノ

間ニ其地中ニ含有セル濕氣尽ク乾燥セスシテ
 樹根ニ之ヲ供給スル程ナルヲ要スレバ又之ヲ
 シテ樹根ニ停蓄セシメサレ程ニ粗糙ナラン
 ヲ要ス地位ノ最モ良好ナルハ東南ニ面シ地
 ヲ受クルヲ好シトス
 茶樹ハ一般ニ種子ヨリ生ス而シテ其種子ハ十月
 之ヲ採リ太陽ニ曝乾シ而シテ冬間ハ砂土中ニ混
 交シ以テ之ヲ保藏シ春ニ至テ播撒シ一年間ハ
 其生育ヲ自由ニ任セ其種子ヨリ生スル新芽ノ
 九イニチ乃至十二イニチノ高サニ達セシ時ニ

隴ヲ作リニ尺乃至三尺ノ距離ニ之ヲ移栽スハ
 該種樹ノ其根ヲ能ク固定シ得ルハ定凡ノ候
 ナル四五月曇陰雨濕ノ天ノ頃トス而シテ第一年
 目ニハ其嫩芽ヲ凡ソ三尺ノ高サニ於テ前截シ
 以テ其枝柯ヲ叢生セシメ其後ハ樹ノ強弱ニ從
 テ通例四年或ハ五年ノ後茶葉摘採ニ至レ迄ハ
 唯ニ樹根ノ生スル雜草ノ除去シ且ツ時ニ其上
 又攪動スルノ外別ニナスベキ事アルナシ
 第二 摘採ニ付テ左ニ述フル所ハ支那全國ノ
 慣熟法ナリ一 支那全國ニ摘採ヲ行フハ春明祭

ノ後十五日即チ四月ノ二十日ニ於テ創メ春明
 祭ハ毎ニ四月五日トス 第二番ノ摘採ハ六月ノ
 半ニ於テシ而シテ十月ニ至テ第四番即チ最後ノ
 摘採ヲ行ハリ 第四番以後ニ摘採ハ秋雨ノカニ
 藉テ第二番第三番ノ摘採ヨリ佳ナルヲアリ
 茶葉ノ各種類ニ從テ各々傭人ヲ異ニシ以テ之
 ヲ摘採セリ 第一番ハ未タ拆セサル葉及ヒ既ニ
 拆セルト將ニ拆センハスル葉ノ枝未ニアルモ
 次ニハ第二第五ノ葉ナル細葉而シテ最後ニハ
 中等ノ品ヲ成ス所ニ第四第五ノ葉ヲ摘採ス第

四ノ摘採ノ後更ニ多クノ葉ヲ生スルヲアリ然
 レ氏是レハ茶樹ノ疲羸ヲ恢復セシメンカ為メ
 之ヲ留メサセヘリヲス
 第三 製造ニ付テ製造ハ素子リ其産出ノ場所
 且ツ茶樹ノ種類ニヨリテ大ニ異同アリ而メ其
 方法ハ大ニ経験ノ熟練ヲ要スト多ク其要領ハ
 濕氣ヲ除逐シ且ツ葉中含有スル所ノ香氣及
 其他ノ愛玩スヘキ分泌ヲ存留セシムルニ在リ
 第四 茶ヲ箱詰メスルハ就中緊要ナル一ニシ
 テ其箱ハ濕氣及ク外氣ノ襲入ヲ防キ且ツ香氣

ヲシテ消失セザラシメン一ヲ要ス九州ニテハ
 茶ヲ下等ノ産物トシテ取扱ク之ヲ包ミ之ヲ庫
 蔵スルニ麦或ハ乾草ト同視スルノ風習ナレハ
 少シク是等ノ取扱方ニ注意スレノニテモ其
 茶ノ市價ヲ大ニ増ス所アルヘシ
 文那入ノ言ニ第一番第一番摘採テ茶ハ日本
 本製箱(紙)乾枯セル木ヲ以テ造リタルニアラ
 カルハ)中ニ入ルヘカテ何トナレハ日本木ノ
 香氣茶ニ薰染カレカ故ナリ九州茶ハ當時ニ於
 テナス如ク茶袋中ニ入レ藁ヲ以テ外包ミ之ヲ

之、空氣ニ暴觸スレ、庫中ニ久シク藏置セシ
 テ速ニ市場ニ輸送セ、其價甚タ増スヘシ又一
 ノ大ナルレ要点ハ葉ノ十分成熟ニ先タツニ三日
 ニシテ之ヲ摘採セハ茶ノ性質甚タ佳好ニ且價
 モ亦從テ増スヘシト
 前既ニ茶葉ノ摘採方及製造法且ツ適當ノ候ニ
 於テ栽培増シ摘採スルニ於テ一層注意セ、
 再々サルニ其ニ九州茶箱詰等ノニ付テ論述
 セシカ故ニ余ハ今將サニ千八百七十六年十二
 月ニ於テ長崎茶ノ古葉ニ就テナシタル経験ヨ

リ得タル結果ヲ閣下ニ告ケントス
 千八百七十六年十二月ニ於テ三井物産會社ヨ
 リ、ニ、三ト記号シ分テタル長崎茶九ノ貳百七
 十ニ磅、各九十磅三分ノニ、余ニ送致セリ此茶
 フ余ハ一ニ混交シテ當地ノ支那製茶場ニ送り
 タリ、而シテ該二百七十二磅ノ茶ニ付テ左ノ結果
 ヲ得タリ

第一種	三十七	百斤ニ付	四十五
第二種	四十五	全	三〇

第一 「クワンケイ」	一〇	全	三五
第二 「ヨシノハヤシ」	二四	全	一八
第三	七半	全	一八
第四 「ヨシノハヤシ」	二六半	全	一八
第五 全	二一	全	二五
第六 全	一六半	全	一九
第七 全	六半	全	一五
第八 「ハツソシ」	五 四分三	全	二九
第九 全	三半	全	一八
第十 「クワンケイ」	三	全	六

一七

計	二〇	四分一	
第十三 茶莖	一三	四分三	三
第十四 「テ」	一二半		一 半
第十五 粉	一五	四分三	三
量減	二四三 二九 四分二	四分一	
差引	三七二		
本 製造費左ノ如シ			
備夫			百斤 付
本 備夫			全

審議記

右小箱三箇ノ東洋紙

七四

木炭

五七

節ト量ノ擇分ナ

六〇

色着ケ共ニ紙

二〇

屋賃

二〇

製造費

五九一

長崎ニ於テ右茶ノ原價第一号ハ百斤ニ付キ拾四圓第二号ハ拾三圓第三号ハ拾貳圓ニシテ其平均價百斤ニ付キ拾貳圓ナリ

長崎ニ於テ右茶ノ原價第一号ハ百斤ニ付キ拾四圓第二号ハ拾三圓第三号ハ拾貳圓ニシテ其平均價百斤ニ付キ拾貳圓ナリ

前述ノ如ク精製シタル上ニテ得タル結果ノ茶

百四十二磅四分ノ一(粉茶其外及ヒ精製ニ付テ

ノ量減貳拾九磅四分ノ三ヲ除シテ)ノ價平均百

斤ニ付キ七十三「テ」トナルナリ

此内ヨリ培養摘採等ノ費用五「テ」ト五「一」ヲ減

ス

即チ差引残十七「テ」ト四九ハ精製長崎茶ノ價

ナリ但長崎ニ於テ其市價ハ拾三日ナリ

結果ハ同前ノ方法ヲ以テシテ貯リ多量

飛澤泉

大藏省

其定領シタル前同質ノ茶ノ高ハ左ノ如シ

第一号 拾九苞 千二百二十五斤 價拾四円

第二号 百。九苞 七千八百拾三斤 全拾五円

第三号 九十九苞 七千二百九十五斤 全拾貳円

第四号 百四十九苞 九千四百九十五斤 全拾壹円

計 貳萬五千八百廿八斤

右茶ヲ一ニ混和シ更ニ支那茶三千斤ヲ和シ精

製シタル茶ハ百斤ニ付キ平均拾八円ニ賣

捌ケタリ

最後ノ試験ニ於ケル長崎茶貳万五千八百二

十八斤ノ内上品ノ茶ハ僅ニ千貳百二十斤其

多分ハ下品ノ茶ニシテ已ニ其平均ヲ失ヘルノ

ミナラス且ツ其品タル時俟後レノ藤悪物ナリ

然ルニ實際右ノ如キ利益ナル結果ヲ得タリ是

レ宜シク意ヲ留ムヘキノコトナリ

前述ノ如キ良結果ヲ氣候後レノ不平等茶ヲ得

タルヲ以テ觀レハ一層摘採方製造方ニ注意ヲ

加テ且ク嫩葉ヲ以テ之レヲ製スル時ハ之レヲ

遠クニ十分ナル良結果ヲ得ンコト又疑ヲ容

支那人の日本産物

支那人の日本産物の一支配、ル茶の將來、天
 盛大ニ至ラ、一ヲ信シ而シテ日政府ノ允許
 能フ所ノ方濟ヲ以テ其業ヲ盛大ニスルヤ
 於テ共ニ力ヲ盡サン一ヲ冀望セリ
 「ホーエンキ」氏ハ當時頻リニ製茶ニ熟練セル
 支那人數名ヲ日本ニ送り日本政府ノ許可ヲ得
 テ産茶ノ地方ニ巡廻セシメ而シテ各種茶樹ノ培養
 及ヒ製造ニ於テ報告シ且ツ歐米濠洲印度等ノ
 各市場ニ適スル所ノ製茶方法ヲ報告セシメン

一ヲ謀レリ

日本茶ハ是等ノ市場ニ適スル支那製茶法ニ從
 ヒ之ヲ製スル一ヲ得而シテ是ノ法ヲ以テ製シタ
 レ茶ハ支那市場ニ於テモ亦高價ヲ以テ容易ニ
 賣捌ク一ヲ得ルナリ
 又日本ニ送ルヘキ所ノ支那人ノ報告ニヨリ日
 本茶ヲ極メテ適當ニ製センカ為メ更ニ製茶ニ
 熟練セル支那人百名ヲ日本ニ送リシ一ヲ企
 而シ是等ノ支那人日本（若シハ之）ト結社シ
 支資奉トシテ拾万一ヲ入レシ若シ日

番詰書

本人之ヲ欲セシレハ獨立ニテ之ヲヨシ日本政
府ノ條約ノ次第ヨリ相替ノ稅ヲ納メシ
セリ
曩日閣下ヨリ西川君ニ送致セラレタル其
製ノ日本茶ヲ見本ヲ以テ余カ注意シ試験セシ
報告ヲ今閣下ニ呈ス且左見本茶ハ百斤ノ付
キ何四下閣下其價ヲ假定セラレタレハ右ノ内
細業ノ分ハ大槩百斤ノ付キ何テ一トニテ賣捌
キ得ル丁ヲ見出セリ

余カ日本茶就中九州茶ニ付テ呈スル所々此報

告ハ閣下ハ實ニ有益ナルモノトシテ其注意惹
ラサルコトヲ信ス謹テ呈ス
シヨントトマン

書翰後部ニ在リ

試験セシ茶ノ覺書ヲ附送ス

再白左ハ吉原ニ附セン日本茶見本ノ録

一ノヨリ六十ノヨリ至ル記号ノ錫筒一合計七
七十一号ヨリ七十号ノ至ル記号ノ錫筒一合計七

飛騨集

大藏省

十三筒ハ支那製日本茶ニシテ松山ヨリ品
 川野ニ送致サレタモノナ
 一号ヨリ十二号ニ至ル十二筒ハA B C三種
 茶ヲ一ニ混シ内地ニテ製造セラル支那茶ナ
 種ナリ此支那茶ナリセル、莖茶ナレタル三筒
 フリ是レハ右茶A B C中ヨリ出タルナリ
 A B C之記号ノ四筒ハ長寄茶ノ四種ナリ愚書
 中ニ決ラレ所ノ支那茶ノ多量ヲ製シタルハ則
 此ノ茶ヨリセシナリ
 相方君ヨリ送致サレタル前陳日本茶七十三筒

儀ハ近使ヲ以テ報告ス可シ

七十三	七十二	七十一	六十四	六十二	五十九	五十二	四十七	四十三	三十七
リンチヤウ	ヒエビ	黒糸	全	全	ハイサン	イムベリヤル	全	コホウドル	イムベリヤル
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
十六	二十五	十六	三十七	三十八	十五	十五	三十五	四十五	二十二
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
十八	二十六	十八		三十	十八		四十		

七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	三十一
全	全	ハイ	ハイ	全	ヨシダハイサン	全
全	全	全	全	全	全	全
十六	十六	十九	四十	三十七	三十五	四十
全	全	全	全	全	全	全
十八		二十一	四十五	三十九		

番
言
記

大
雅
行